

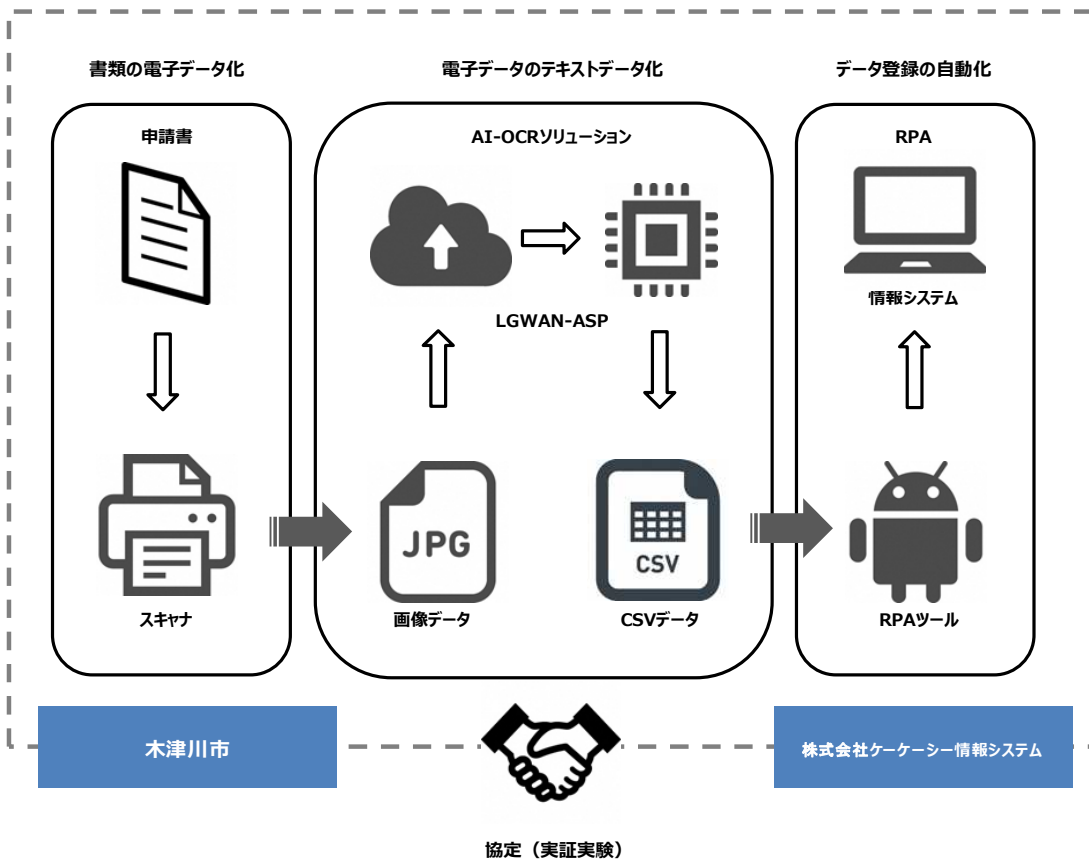
# AI-OCR・RPA 導入実証結果報告書（概要版）

## 1. 目的

本実証実験は、木津川市が実証フィールドを提供し、事業者の豊富な自治体業務に対するノウハウ、RPAの導入実績を活用し、市役所の様々な業務へのAI-OCR・RPA適用可否や効果を見極めることで、段階的導入の第一歩と位置付ける。

## 2. 実施体制

木津川市をフィールドとし、内部事務に精通した事業者と連携することにより柔軟かつ効率的に業務自動化の共同実証を行うとともに、市役所業務に数多く存在する、紙媒体での申請書等をシステムに入力する作業について、これら紙媒体の情報をAI-OCRを利用してデジタル化することで、RPAの導入効果の向上を図る。



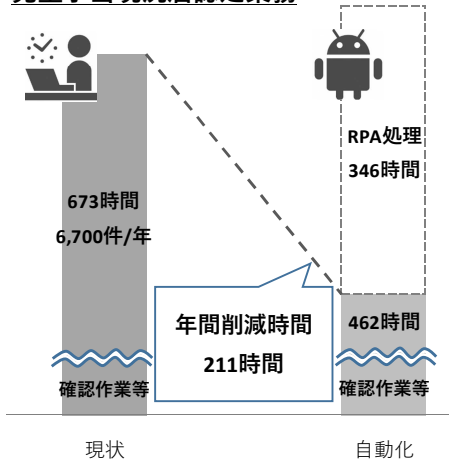
## 3. 対象業務

業務自動化に関する全庁アンケート及び個別業務ヒアリングを実施し、対象業務を選定した。

業務名	業務内容	件数
児童手当現況届認定業務	給付対象者から現況届を受領し、職業区分等をシステムに入力、児童手当の継続支給の判定等を行う業務	6700件/年
放課後児童クラブ延長料金入力業務	各児童クラブから提出されるエクセルの延長料金表をシステムに入力し、延長時間に応じた料金を徴収する業務	200件/月
年末調整申告書等入力業務	職員から提出される保険料控除申告書等の内容をシステムに入力、支払うべき所得税額を計算し源泉徴収票等の作成を行う業務	1500件/年

## 4. 検証結果

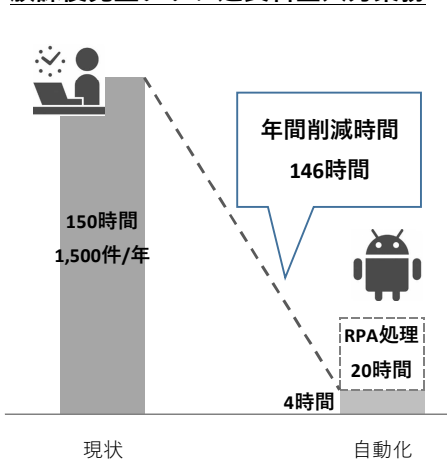
### 児童手当現況届認定業務



#### 【検証結果】

- システムへの入力に係る作業時間について、RPAによる一定の削減効果が得られた。
- AI-OCRについて高い認識率（99.0%）が得られた。
- 導入過程において現行の手順や様式を見直すことで業務全体の効率化を図ることができた。

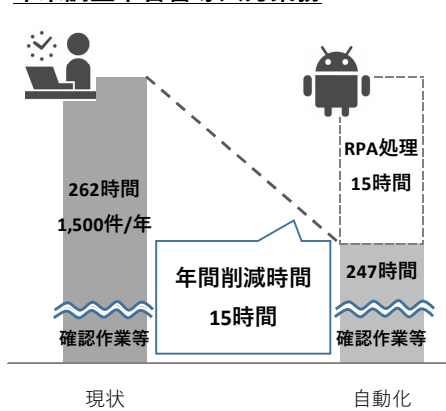
### 放課後児童クラブ延長料金入力業務



#### 【検証結果】

- 業務の大半が定型的なシステム入力作業であるため、RPAによる大幅な削減効果が得られた。
- 入力元データのレイアウトや確認作業の手順を見直すことで業務全体の効率化を図ることができた。

### 年末調整申告書等入力業務



#### 【検証結果】

- システムへの入力に係る作業時間については、RPAによる削減効果が得られた。一方で、職員による添付書類との突合作業が業務の大きなウェイトを占めているため、業務全体におけるRPAの導入効果は限定的であった。
- AI-OCRについて高い認識率（95.6%）が得られた。

## 5. まとめ

本実証実験において、RPAとAI-OCRを組み合わせることで、自動化の対象範囲が拡大し、定型業務の負荷削減・効率化について一定の効果を得ることができた。また、AI-OCR・RPAの導入過程における業務プロセスの見直しを契機とし、業務手順の効率化・標準化などの副次的な効果を確認することができた。

一方で、例外処理が多く発生するものや、帳票の様式が統一されていないものについては、RPAによる自動化との親和性が低く、削減効果は限定的であった。

## 6. 今後の展開

AI-OCR・RPAの本格導入にあたっては、全庁的に取り組みを進め、費用対効果について検証し、本実証実験で得られた効果の最大化を目指す。

本実証実験の対象3業務について2020年1月以降、本格導入を行い、2022年度には本実証実験においてヒアリングを実施した20業務について自動化を適用し、職員の年間作業時間2,400時間以上の削減を目指す。

2023年度には再度「業務自動化に係るアンケート」を実施することで対象業務を洗い出し、将来的には職員の年間作業時間10,000時間以上の削減を目指す。

### AI-OCR・RPA導入対象業務拡大ロードマップ

